
白ひげ海賊団の最終鬼畜娘

ぼす黒ール

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白ひげ海賊団の最終鬼畜娘

【コード】

N0919BA

【作者名】

ぼす黒ール

【あらすじ】

知らぬ間に、フランちゃんになっていた男の子のお話。このお話はお空が海軍になるお話を読んで思いつきました。初投稿です。

プロローグ？

目が覚めると、そこは見知らぬ天井だった

そして、自分は確か男の子だったはずなのになぜ？なぜ、自分は女の子になっっているんだ？

その姿はどう見ても、自分が好きな東方のキャラクターである

「フランドール・スカーレット!？」

とにかく、自分のいる場所を確認しなければ!

外に出て見ると、太陽がとても熱く感じたが、灰になるほどではない

初老の男性に話しを聞いて、本日何度目かの驚きが襲った!

「グランドライン!？」

グランドライン、それは漫画ワンピースの世界だ

「どうしよう?？」

私は考えているうちに、だんだんと女の子になってきていた。

一人称が、ワタシになっていた

すると周りが騒ぎ出した

白ひげ海賊団だあ！

英雄が帰ってきたような喜びかただった

「白ひげ海賊団？仲間にしてもらおう！」

V S エース

白ひげ海賊団の仲間になる

そう決めて羽を羽ばたかせた。太陽が熱く感じるがやはり弱点になるほどのことではなかったようだ。

「あ！あれって、エース！？」

エースにとっても衝撃的だった。その日船に物質を運び入れていたとき、気がついた。

「ちっちゃなガキが飛んできた…」

フランはエースに頼んで仲間にしてもらいたいな。と思っていた
エースにとって見れば自分の半分ほどしかない幼女がこの過酷な海賊の世界に入りたいと頼んできたのだからその驚きは、いままでで、ベスト3に入るレベルだった。

エースからの返事は、フランの予想通りの答えだった。

「駄目だ！」

やっぱりと思った。ていうかいま気がついた記憶がごちゃごちゃに混じっている。もともと男の子だったのか女の子だったのかわからないのに、東方とワンピースのことはしっかりと覚えていた。

ってそんなこんなを考えている場合ではなかった。駄目だ！その答えは予想はしていた。その打開策も…

「だったら、ワタシトアソボウヨ」

エースは最近はなかった高ぶりを覚えていた。肌を焼くようなその殺気、相手から溢れ出る狂気。だが、エース悪魔の実の能力、メラメラの実の能力者。全身火人間だから、攻撃は受け流すはずなのになぜ攻撃が当たる！

しかも、一撃で立つのもつらいほどの重撃。

「マダコワレナイヨネ」

その瞬間大声が響いた

「やめねえーかー!!」

覇気が混じったその声で、フランが元に戻った

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0919ba/>

白ひげ海賊団の最終鬼畜娘

2012年1月2日11時46分発行